概　要　報　告

実施期日	令和７年８月１日(金)
部　会　名	中学校　音楽部会

研究主題

カリキュラム・マネジメントによる学校教育の改善・充実（含む社会に開かれた教育課程の実現）

テーマ

『地域素材を生かした創作から歌唱につなげる授業づくり』

提案概要

〈実践内容〉

・総合的な学習の時間と音楽の教科等横断的な学習から、葉山町の魅力を歌にする。
・町探検を行い、「町の魅力」という素材を生かすことにより、情景や気持ちを音楽で表現することの楽しさを感じてもらう。

〈手立て〉

・音楽を形づくっている要素の学習を積み重ねていくことにより、合唱や鑑賞においても、さまざまな要素によって効果があることを知る。
・地域素材と音楽表現を組み合わせることにより、子どもたちの表現を豊かにしていく。
・班活動を充実させるために、班の中で役割分担を行った。

〈授業の流れ〉

１時間目（総合的な学習の時間）：歌詞の作成
２時間目：個人作品を作曲
　◎評価基準の明確さ ◎イヤホンを使った授業
３時間目：葉山songの作曲
　◎班ごとに２小節ずつ作曲（班の中で役割を決める）
　◎メモ係は工夫したことを記録→言語化
　◎教員からの「なんで？」という問いかけを大切に行う
４時間目：葉山songを歌唱
　◎完成した曲を聴いての感想共有
　◎歌唱のポイントを発表

〈成果と課題〉

・アンケート結果から、今回の取組により、表現活動がさらに豊かになり、音楽の表現を「楽しい」と感じる生徒が増えた。また、改めて「地域の魅力」を再確認できた。
・これまでの学び（音楽を形づくっている要素）を活用しながら、今回の創作に繋げることができた。また、生徒の理解度を知る機会にもなった。
・教員からの声掛けが創作活動のポイントとなる。
・完成した曲を聴いて感想を共有したことにより、作品への愛着が湧いていた。
・「歌う」活動に活かしきれなかったので、歌う機会を増やし、地域に発表する場などを設定することにより、聴き手を意識した活動になると感じた。
・アプリの特性上、一つの端末でしか活動できなかったので、グループ活動においては不向きだと感じた。

協議の柱及び協議概要

キーワード：音楽を形づくっている要素、創作テーマ、素材、グループ活動

〈発表者の先生方が聞きたいこと〉

・子どもたちの表現活動が豊かになるために工夫していること

・グループ活動で工夫していること

①主体的な学習となる授業のデザイン

グループ協議の内容

・主体的に取り組もうとするためには音楽の知識が必要である。

・ＩＣＴの活用（作曲アプリや学習アプリなど）をすることにより、表現活動が豊かになっていく。

・教員や子どもたちの手本を示すことにより、活動が進んでいく。

・主体的な学習にするために、要素（リズム、メロディ、速度など）・素材・時間（地域学習につなげていく）を大切にする。

・子どもたちが創作する上では欠かせないＩＣＴだが、使用についての時間を取らなければならないことや子どもたちが慣れて使うまでに時間がかかってしまう。

・月の歌を決めて歌うなど、常時活動をパターン化すると子どもたちも取り組みやすくなる。

・町探検や鬼ごっこなど、子どもたちが共通の体験をすることにより、イメージをもちやすくなり、よりよい作品作りになったのではないか。

発表

・積み重ねがあるからこそ、創作活動につながっていく。

・音楽が苦手な生徒もＩＣＴによって、音楽の楽しさにつながっていく。

・グループ活動によって、音楽が得意な子に負荷がかかってしまう。

・創作の過程で話合い活動があることにより、さらに創作活動に磨きがかかっていた。

・テーマの共有によって、子どもたちが安心して創作活動に臨めていた。

②協働的な学びを深める手立ての工夫

※小学校の概要報告を参照

まとめ概要

今回の教育課程の発表は小中共に「創作」の題材についての発表であった。どちらも同じＩＣＴを使った内容であったが、地域を生かした創作や自分のテーマに沿った創作といった、発表者の先生によって　　工夫されている点などが違っていたことなどがとても勉強になった。

松平先生の提案のポイントとなったのは、「地域素材」を生かした創作活動とグループ活動である。総合的な学習の時間と音楽の授業の組み合わせにより、創作活動がより身近に感じられ、子どもたちの思いや意図をもつことが出来る表現活動になっていた。また、創作活動をする際に、班活動を成立させるための工夫として、班の中で役割を明確にすることにより、活動が苦手な生徒への支援がされていた。協議では、音楽が得意な生徒の負荷になってしまうのではないかという意見もあり、今後の課題にも感じた。創作活動を活性化させる工夫として、子どもたちの「なんでだろう？」という思いを大切にしながら授業を行っていた。

子どもたちにとって苦手意識のある「創作」の授業をより充実していくためには、身近なテーマを設定することやＩＣＴの活用を工夫することなどが大切である。今回の発表を聴いて、やってみたいと思った先生方も多くいたように感じる。「なんで？」という問いかけは子どもたちにとって貴重であり、子どもたちが秘めている思いを引き出していくために必要なことである。